

ISO14001 認証取得状況

国内工場および事業部

1996年に認証取得の準備を開始し、1997年1月に同業他社に先がけて、ばね横浜工場でISO14001の認証を取得しました。これを皮切りに毎年3工場ずつ取得を進め、2001年4月に最後の工場が認証を取得して国内11工場すべてで認証取得を達成しました。また、2006年11月には、横浜事業所内のSTS事業部で認証を取得しました。

●国内工場および事業部のISO14001 認証取得年月



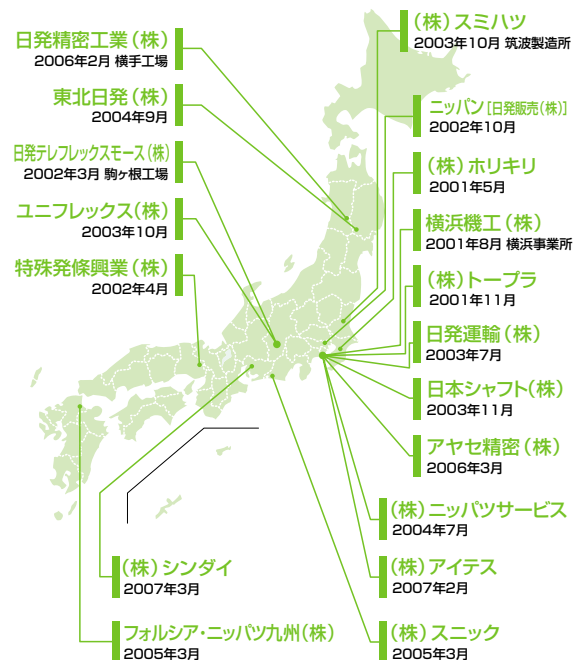
国内関連会社

日発睡会で行われた「環境対策研修会*」での研修を活かし、ISO14001の認証取得に取りかかる会社が増えはじめ、今までに国内関連会社23社のうち18社がISO14001の認証取得を達成しています。これにより、独自のサイトを持ち、ISO14001を取得すべき国内関連会社はすべて、認証の取得を達成しました。

国内関連会社のうち、ほかの5社は、既取得部門との連携、または独自で環境保全活動を進め、ISO14001は取得しない方針です。

*国内関連会社のグループ活動実践の場、日発睡会の技術部に、1999年6月に発足。

●国内関連会社のISO14001 認証取得年月



環境会計

2006年度の環境会計の分類と実績

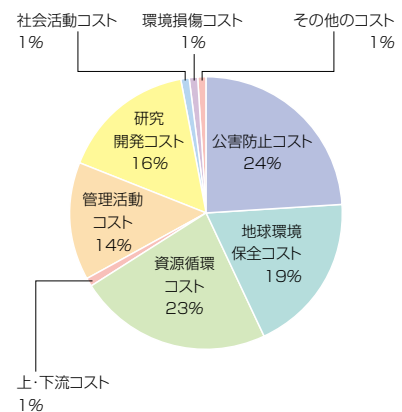
当社では2000年度より環境会計を導入し、環境省の「環境会計ガイドライン」(2000年度版)に準拠し、下表9項目の分類でデータ集計を実施しています。2006年度は環境会計を導入してから7年目となり、投資効果についても把握を行っています。

当社として一定の基準を設けて算出した結果、2006年度における環境会計は総額で約9億4,600万円となりました。その内訳は下表のようになっています。

●2006年度環境保全コスト

単位：百万円/年

コスト分類	主な内容	2005年度実績金額*	2006年度実績金額*
①公害防止コスト	排水処理設備や集塵機の維持管理費用、大気・水質・騒音などの測定監視費用、その他公害防止に要する費用	115.4	232.9
②地球環境保全コスト	工場内の緑地保全活動費用、省エネルギー対策費用、温暖化防止費用など	64.0	180.5
③資源循環コスト	廃棄物処理、ゼロエミッション対策費用、事業所内リサイクル費用など	218.3	221.1
④上・下流コスト	当社の生産活動にともない、購入先や取引先などで発生する環境負荷を抑制するための費用(グリーン購入、製品リサイクル、梱包材削減費用など)	8.0	5.0
⑤管理活動コスト	廃棄物マニフェストの管理費用、ISO14001維持・更新審査費用およびISO14001事務局の人員費、行政への各種届出のための費用など	111.1	136.7
⑥研究開発コスト	環境負荷低減のための研究や、環境負荷低減に貢献する製品開発のための費用など	226.3	152.0
⑦社会活動コスト	社会貢献活動を実施するための費用など(周辺地域・河川の清掃奉仕活動)	6.1	6.2
⑧環境損傷コスト	周辺の環境損傷を修復するための費用など	6.5	5.9
⑨その他のコスト	上記以外の環境保全のための費用	4.7	6.3
合計		760.4	946.6



*実績金額とは、「環境投資」および「環境保全」に関する金額を合計したものです。

2006年度の投資効果の分類と実績

2006年度の実績は下表の通りであり、エネルギー/CO₂使用量、廃棄物リサイクル量および処理費用について改善効果がみられました。

2006年度は、エネルギー単価の大幅な増加のため、エネ

ルギー費用原単位は前年度より若干増加しました。

今後はすべての項目で継続的に改善できるよう努力していきます。

●2006年度投資効果実績

	物質効果 ^{※1}			経済効果 ^{※2}			評価
	2005年度実績	2006年度実績	効果	2005年度実績	2006年度実績	効果	
エネルギー使用原単位(J/百万円) ^{※3}	7,125	6,898	△227	-	-	-	○
CO ₂ 原単位(kgC/百万円) ^{※3}	0.168	0.158	△0.010	-	-	-	○
廃棄物理立量(トン/年)	27.2	20.6	△6.6	-	-	-	○
廃棄物再資源化量(トン/年)	22,769	24,230	1,461	-	-	-	○
エネルギー費用原単位(円/千円) ^{※3}	-	-	-	17.5	17.8	0.3	△ ^{※4}
廃棄物処理費用原単位(円/千円) ^{※3}	-	-	-	0.80	0.77	△0.03	○

※1 物質効果：環境汚染物質等の削減など ※2 経済効果：省エネ・廃棄物の削減など ※3 原単位：売上高に対する数値 ※4 エネルギー単価増のため

2006年度の実績と2007年度目標

省エネルギー

当社は、地球環境問題が表面化する以前から省エネルギー活動に取り組み、1993年には省エネルギーワーキンググループを設置しました。横浜事業所（本社、ばね横浜工場、シート横浜工場）では、1991年の移転以来、現施設および設備の省エネルギー対策を強化・実施しています。

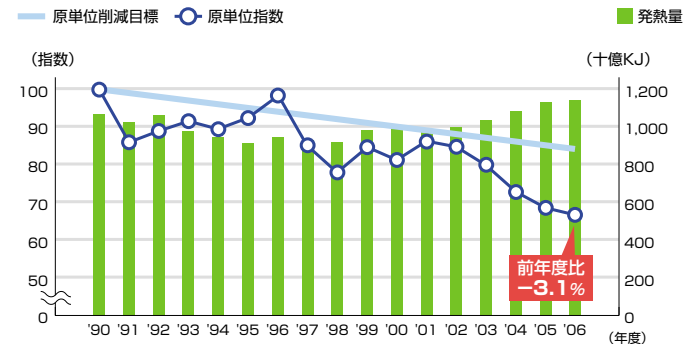
目標

売上高エネルギー原単位、年率1%削減（1990年度基準）
 （省エネルギー法「工場又は事業場におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準」による）

2006年度目標	2006年度実績	評価	2007年度目標
原単位目標値* 84.0	原単位 66.5	◎	原単位 83.0

*原単位目標値：1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

●売上高エネルギー原単位の目標値と実績推移



CO₂排出量削減

当社は、国内関連会社との連携によりCO₂排出量の具体的な削減目標をかかげ、地球温暖化防止に取り組んでいます。

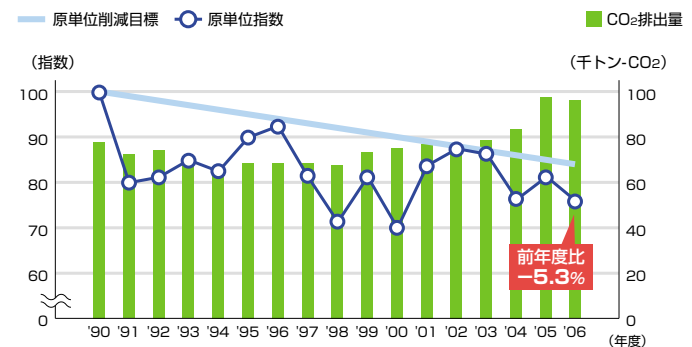
目標

2010年度までにCO₂排出量を7%削減（1990年度基準）
 並びに2010年度原単位を20%削減する（1990年度基準）
 （日本自動車部品工業会「第4次環境自主行動計画」による）

2006年度目標	2006年度実績	評価	2007年度目標
原単位目標値* 84.0	原単位 75.8	◎	原単位 83.0

*原単位目標値：1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

●CO₂排出量原単位指数の目標値と実績推移



廃棄物再資源化

当社は、ゼロエミッション*達成を目標に廃棄物の埋立処分量削減に取り組み、これを2002年度末に横浜事業所で達成しました。2003年度から、これを全社的な取り組みとし、2005年度からは国内関連会社に拡大し進めています。

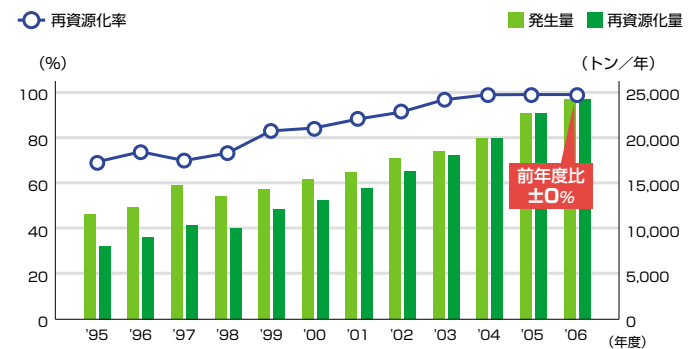
目標

2005年度までに全社ゼロエミッション達成
 （2004年度末で再資源化率99.8%を達成済）

2006年度目標	2006年度実績	評価	2007年度目標
再資源化率 99%以上	再資源化率 99.9%	◎	再資源化率 99%以上を継続

*ゼロエミッション：当社のゼロエミッションの定義は再資源化率99%以上

●廃棄物再資源化率の実績推移



ジクロロメタン削減

当社は、加盟する（社）日本自動車部品工業会の「環境自主行動計画」*1による削減目標より厳しい自主目標を設定して、ジクロロメタンの使用量削減に取り組んできました。全社的な取り組みで洗浄剤や接着剤を代替品に転換することにより、業界目標より5年、自主目標より1年前倒しでジクロロメタンの全廃を達成しました。

目標

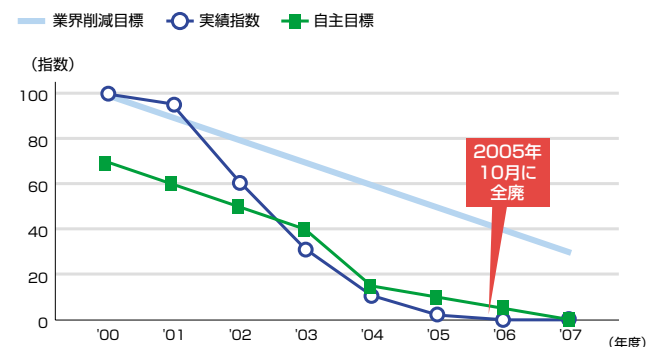
2006年度末までに全廃

2006年度目標	2006年度実績	評価	2007年度目標
5 (指数*2)	0 (指数*2)	◎	全廃状態の維持

*1 環境自主行動計画：2006年5月改訂「第4次環境自主行動計画」での目標は、2010年度までの排出量95%削減（2000年度基準）

*2 2000年度の使用量を100(指数)とする

●ジクロロメタン削減の目標値と実績推移



環境負荷物質の管理と削減

PRTRの調査

当社は1997年度から、日本経済団体連合会のPRTR自主調査の取り組みに参加し、環境負荷物質の取扱量、排出量および移動量の把握に努めています。

2001年6月からは経済産業省にPRTR法によるデータ報告を行っていますが、当社は独自の調査基準を設け、全部門で使用されている化学物質の取り扱い状況を把握しています。

さらに2005年度より、国内関連会社においても当社と同様のPRTR自主調査を行い、排出量の削減に努めることとしました。

物質ごとの総量で年間取扱量0.1トン以上のものは下表の通りです。

●2006年度環境負荷物質の排出量・移動量の調査結果

PRTR法 政令No.	物質名	指定 化学物質の 種類	取扱量	排出量						移動量	
				大気	水質	土壌	自工場で埋め立て			下水道	産廃 (委託)
							安定型	管理型	遮断型		
1	亜鉛の水溶性化合物	第一種	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
12	アセトニトリル	第一種	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	2-アミノエタノール	第一種	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	メタ-アミノフェノール	第一種	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
25	アンチモン及びその化合物	第一種	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40	エチルベンゼン	第一種	17.5	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
43	エチレングリコール	第一種	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
61	ε-カプロラプタム	第一種	3.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
63	キシレン	第一種	48.4	26.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
119	trans-1,2-ジクロロエチレン	第一種	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
172	N,N-ジメチルホルムアミド	第一種	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
176	有機ズス化合物	第一種	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
218	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)-1,3,5-トリアジン-2,4,6(1H,3H,5H)-トリオン	第一種	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
224	1,3,5-トリメチルベンゼン	第一種	1.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
227	トルエン	第一種	59.6	31.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6
230	鉛及びその化合物	特定第一種	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
232	ニッケル化合物(特一種)	第一種	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
270	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	第一種	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	第一種	1.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
309	ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	第一種	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
311	マンガン及びその化合物	第一種	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
338	メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート(TDI)	第一種	897.5	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
PRTR合計			1039.3	73.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
関連会社											
1	亜鉛の水溶性化合物	第一種	20.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	11.3
16	2-アミノエタノール	第一種	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
30	ビスフェノールA	第一種	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40	エチルベンゼン	第一種	45.1	44.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
43	エチレングリコール	第一種	14.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
61	ε-カプロラプタム	第一種	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
63	キシレン	第一種	135.8	78.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
132	HCFC141B	第一種	2.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
135	1,2ジクロロプロパン	第一種	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
145	ジクロロメタン	第一種	55.5	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.8
172	N,N-ジメチルホルムアミド	第一種	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
177	スチレン	第一種	62.5	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
224	1,3,5-トリメチルベンゼン	第一種	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
227	トルエン	第一種	151.8	147.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9
230	鉛及びその化合物	特定第一種	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
232	ニッケル化合物(特一種)	第一種	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
243	バリウム及びその水溶性化合物	第一種	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
270	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	第一種	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
307	ポリアルキルエーテル	第一種	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0
PRTR合計			500.2	307.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	68.3

本社・研究開発本部

本社・研究開発本部



所在地 横浜市金沢区
業務内容 企画・管理・研究開発
業務開始 1991年2月
従業員数 366人

コメント

ニッパツ本社および研究開発本部では、ばね・シート生産部の横浜工場と共に、隣接する景勝地や周辺地域の環境に配慮した事業活動を行っています。また夏冬の冷暖房設定温度：28℃/18℃厳守や夏期のクールビズ活動の実施、社有車のエコドライブの推奨など、省エネルギー活動を積極的に推進し、CO₂排出量の削減に努めています。

2006年度および2007年度の取り組み

公害防止および地球環境保全活動の推進
●2006年度は、公害防止および地球温暖化防止のための取り組みや設備投資を行いました。2007年度も同様の活動を推進していきます。

環境負荷低減のための研究開発の促進

●環境配慮型の製品・技術の研究開発を継続しています。

化学物質の管理

●ニッパツおよび関連会社で保有する環境負荷物質について、毎年PRTR法に基づく取扱量および排出量管理を実施しています。また2007年度以降は、当社製品に含まれる各種化学物質を管理するシステムを構築していきます。

●大気(規制値：大気汚染防止法、横浜市環境条例)

物質	設備	規制値	実績
NOx	温水ボイラー	A	0.065 0.007
		B	0.075 0.020
	冷温水発生器	A	0.066 0.020
		B	0.046 0.032
ばいじん	温水ボイラー	A	0.05 0.043
		B	0.05 0.030
	冷温水発生器	A	0.05 0.029
		B	0.05 0.044

NOx単位：m³N/h ばいじん単位：g/m³N

●水質(規制値：横浜市下水道条例) 単位：mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	8.2	6.8	7.5
油分	5	3.7	<0.1	1.1
Fe	3	0.3	<0.01	0.1
Zn	1	0.5	<0.01	0.03
Ni	1	0.1	<0.01	0.02
T-Cr	2	0.2	<0.01	0.04
フッ素	8	1.2	<0.01	0.2
フェノール	0.5	<0.05	<0.05	<0.05

●水質：研究開発棟(規制値：横浜市下水道条例) 単位：mg/l

項目	規制値	規制値	実績		
			最大	最小	平均
pH	研究開発棟1 研究開発棟2	5~9	8.5	7.0	7.5
			7.1		
油分	研究開発棟1 研究開発棟2	5	4.9	0.1	0.9
			0.7		
Fe	研究開発棟1 研究開発棟2	3	0.2	<0.01	0.1
			0.11		
Zn	研究開発棟1 研究開発棟2	1	0.4	<0.01	0.03
			<0.01		
Ni	研究開発棟1 研究開発棟2	1	0.3	<0.01	0.04
			0.02		
T-Cr	研究開発棟2	2	0.05		
フェノール	研究開発棟2	0.5	0.05		

※研究開発棟2は、現在休止中のため実績のみ

ばね生産本部

ばね横浜工場



所在地 横浜市金沢区
生産品目 ばね・コイルばね・ラジラスロット
操業開始 1987年11月
従業員数 345人



工場長 赤松 英夫

工場長コメント

当工場は、従業員および関係者が、日々身近な環境に関する感性を磨いています。そして、全員で取り組む「地球にやさしいばねづくり」をめざします。

考え方と方針

当工場は、「地球にやさしいばねづくり」を実現するために、環境保全、省エネルギー、廃棄物削減などの環境管理活動を工場運営の重要基盤の一つとして展開し、従業員の環境意識高揚を図ります。

2006年度および2007年度の取り組み

廃棄物削減と再資源化

●洗浄廃液の工場内施設での廃水処理の100%実施化、並びに廃油(産業廃棄物)の後処理実施による有価物化により、前年度比、産業廃棄物の排出量指数で32.5%削減、産廃指数で5.6%の削減を達成しました。日常的に発生する廃棄物は、2006年度通期実績で99.9%の再資源化を維持しています。

省エネルギー

●工業用水ポンプ用モーターのインバーター化により、ポンプ能力の最適化を行い、動力の省エネルギーを実現しました。

●大気(規制値：大気汚染防止法、横浜市環境条例)

物質	設備	規制値	実績
NOx	金属加熱炉	A	0.125 0.084
		B	0.108 0.057
		C	0.189 0.064
		D	0.151 0.082
		E	0.106 0.035
	金属戻し炉	A	0.163 0.008
		B	0.105 0.009
		C	0.089 0.040
		D	0.073 0.019
		E	0.051 0.015
ばいじん	金属加熱炉	A	0.1 0.03
		B	0.1 0.03
		C	0.1 0.04
		D	0.1 0.04
		E	0.1 0.04
	金属戻し炉	A	0.1 0.04
		B	0.1 0.04
		C	0.1 0.03
		D	0.1 0.05
		E	0.1 0.03

NOx単位：m³N/h ばいじん単位：g/m³N

●水質(規制値：横浜市下水道条例) 単位：mg/l

項目	規制値	実績			項目	規制値	最大	実績 最小	平均
		最大	最小	平均					
pH	5~9	7.8	6.5	7.0	Ni	1	0.65	0.09	0.22
油分	5	2.3	0.1	1.0	Mn	1	0.05	<0.01	0.02
		30	3.1	0.1	1.1	フッ素	8	0.67	0.02
Fe	3	0.2	0.03	0.07	ほう素	10	0.60	0.10	0.28
Zn	1	0.1	<0.01	0.02					

滋賀工場



所在地 滋賀県甲賀市
生産品目 コイルばね・スタビライザー・トーションバー
操業開始 1973年11月
従業員数 269人



工場長 八屋 博司

工場長コメント

滋賀工場スローガン「STPM活動で生き生き進化、滋賀工場」の7本柱の活動の一つとして、全員参加できる環境保全活動を行い、「環境にやさしいばねづくり」を積極的に推進します。

考え方と方針

当工場スローガン「STPM活動で生き生き進化、滋賀工場」のもと、STPM活動の7本柱の一つである環境保全を全員が参加できる取り組みに具現化し、環境にやさしいばねづくりを積極的に推進します。

2006年度および2007年度の取り組み

省エネルギー

●改正省エネ法施行にともない、エネルギー管理標準の体制を強化します。
●燃料ガスをLPGからLNGに転換することにより、CO₂排出量の16%削減を図ります。
●2006年度に引き続き、天井照明機器を省エネタイプに更新することにより、電力使用量の削減を図ります。

省資源活動

●工場廃棄物削減の大きなテーマに廃水処理から発生する汚泥がありますが、今年度は視点を改めて汚泥削減にトライします。
●2006年度は「古紙」の廃棄物処理から有価処理への変更を行いました。2007年度は「廃油」の有価処理に挑戦します。
●輸入梱包資材の積極的な再利用を行います。

●大気(規制値：大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	実績
NOx	金属加熱炉	A	300 56
		B	300 49
		C	180 32
ばいじん	金属加熱炉	A	0.25 0.09
		B	0.25 0.08
		C	0.25 0.07

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質(規制値：水口町協定) 単位：mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	6~8	7.9	7.0	7.5
BOD	20	6.0	≤1.0	1.6
COD	20	7.0	1.0	3.7
SS	10	3.0	1.0	0.9
油分	3	1.8	0.1	0.9
総窒素	12*	10.6	2.3	5.5
総りん	1.2*	0.07	≤0.01	0.02

※滋賀県条例

群馬工場



【尾島地区】 【太田地区】
所在地 群馬県太田市 群馬県太田市
生産品目 自動車用シート 自動車内装品
操業開始 1986年12月 1969年7月
従業員数 365人 尾島地区に含む



工場長 菊地 一夫

工場長コメント

新田の歴史を今に残す田圃に囲まれた工場です。環境保護のため地域社会と積極的に連携し、全員参加で環境負荷物質の削減、廃棄物の削減とリサイクル、省エネルギーに取り組み、地球にやさしいシート工場を継続的にめざします。

考え方と方針

当工場は、安全で人にやさしい「自動車用座席」および「自動車用内装品」を生産し、豊かな自動車社会に貢献しています。設計、製造から出荷までを一貫して行う事業体系を活かし、製品・設備の設計段階から省資源、リサイクル、および環境負荷低減の可能性を追求していきます。

2006年度および2007年度の取り組み

省エネルギー

- 2006年度、当工場は改正省エネ法により「第1種エネルギー管理指定工場」に指定されました。この対応として、2006年11月に電力モニタリングシステムを導入し、エネルギー使用量の計測・記録・分析を実施し電力原単位の削減を図っています。
- 2007年度は、LPGおよび上水道のモニタリングをシステムに加え、それぞれのエネルギー使用量の計測・記録・分析を強化・明確化し、全要員による省エネルギーを展開していきます。また、トンキロデータの集計および削減計画を策定し、地球温暖化防止活動を推進します。

廃棄物削減と再資源化

- 2006年度は、事務所および各職場に設けた分別ステーションの運用から1年間が経緯しました。分別ルールの強化を行った結果、個人ごみの持ち帰りについて順守・徹底を図ることができました。
- 2007年度は、週1回の定期的な「環境パトロール」を実施することにより、ルールの順守状況の確認とさらなるレベルアップを図ります。また、廃棄物の再資源化では中間（最終）処分地の視察と、サーマルリサイクルからマテリアルリサイクルへの展開を図っていきます。

●大気：尾島地区（法規制外設備のため自主規制値）

物質	設備	規制値		実績	
		最大	最小	最大	最小
NOx	ボイラー	A	300	48	
		B	300	61	
		C	300	80	
ばいじん	ボイラー	A	0.2	0.05	
		B	0.2	0.07	
		C	0.2	0.06	

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質：尾島地区（規制値：尾島町協定）

単位：mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	6~8	7.9	6.2	7.0
BOD	10	5.0	1.0	2.2
SS	10	4.0	1.0	1.5
油分	5	2.2	0.0	0.6
動植物油	30	4.2	0.1	0.6

●水質：太田地区（規制値：群馬県条例）

単位：mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8~8.6	8.4	7.1	7.7
BOD	40	11.0	2.0	5.0
COD	40	12.0	5.0	7.7
SS	50	16.0	1.0	4.5
油分	5	4.6	0.4	1.4

シート横浜工場



所在地 横浜市金沢区
生産品目 自動車用シート・内装品
操業開始 1990年4月
従業員数 389人



工場長 坂野 健二

工場長コメント

金沢八景、富岡そして海の公園といった横浜の景勝地の環境を守るべく、地道な努力の継続により、周辺地域の模範となる事業所をめざします。

考え方と方針

当工場は、環境にやさしい工場づくりをめざすとともに、地球の美しい自然を後世に残す強い意志のもと、地球環境への配慮を工場運営の重要基盤の一つと考え、すべての事業活動における環境保全の向上と社会への貢献を継続的に実施していきます。

2006年度および2007年度の取り組み

廃棄物削減と再資源化

- 2006年度は、新規プロジェクトの増加により試験・実験後の廃棄品が大幅に増加しましたが、2004年度より実施している徹底した解体分別により、再資源化率99.6%を達成できました。
- 2007年度は、前年度以上に新規プロジェクトの増加が予想されるため、さらなる解体分別により再資源化率99%以上を維持します。

環境保全への対応

- 従来はポリ箱の荷崩れ防止として、ストレッチフィルムを使用していましたが、納入先・当工場（空ポリ箱返却時同様のフィルムを使用）でフィルムが廃棄されるため、再使用可能なECOバンドに変更し廃棄物の削減を行いました。
- 当工場では、近年、海外での新規受注・開発品の増加により海外からの評価・実験品の納入が増加しています。従来、海外梱包品はすべて木枠梱包でしたが、様々な検討を行い段ボール梱包に変更し、材料となる森林の保護および廃棄物の削減を行いました。
- 不慮の大雨でも、油を含んだ水を社外へ流出させないよう、「金属スクラップ・廃棄物置場」を設置しました。

●大気（規制値：大気汚染防止法、横浜市環境条例）

物質	設備	規制値		実績	
		最大	最小	最大	最小
NOx	ボイラー	A	0.067	0.033	
		B	0.067	0.042	
ばいじん	ボイラー	A	0.050	0.017	
		B	0.050	0.013	

NOx単位：m³N/h ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：横浜市下水道条例）

単位：mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	7.2	5.7	6.6
油分	5	4.3	0.2	1.1
動植物油	30	5.2	0.2	2.8
Fe	3	0.18	<0.01	0.07
Zn	1	0.06	<0.01	0.02
Ni	1	0.11	<0.01	0.03

豊田工場



所在地 愛知県豊田市
生産品目 自動車用シート・内装品
操業開始 1961年6月
従業員数 319人



工場長 坂本 博樹

工場長コメント

2007年度は環境をはじめ、すべてにおいて「No.1」工場をめざします。特に周辺地域の環境保全への取り組みとともに、工場内作業環境の改善にも力を入れていきます。

考え方と方針

当工場は、安全で人にやさしい「自動車用座席」および「自動車用内装品」を生産し、豊かな自動車社会の発展に貢献していくとともに、設計、製造から出荷までを一貫して行う事業体系を活かし、環境保全の向上と社会への貢献、地域環境への配慮を継続的に実施していきます。

2006年度および2007年度の取り組み

騒音対策

- 2007年度も近隣住民とのコミュニケーションを密に取りながら、皆様から愛される工場をめざしていきます。特に1,200トン大型プレスを導入予定のため、騒音について十分配慮していきます。

省エネルギー

- 2006年度は、省エネルギー活動として使用電力量の把握など、きめ細かい活動を行うため、工場内各エリアの変電所に自動電力計測機を取り付け、管理できるようにしました。
- 2007年度は、湯洗機などのLPGボイラー使用設備を個別ヒーターに変更してボイラーを停止させることにより、不要なエネルギーの削減を行い、第1種エネルギー管理指定工場として省エネルギー活動に取り組んでいきます。

●水質（規制値：下水道法）

単位：mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	8.1	6.2	7.3
BOD	600	4.0	1.0	2.4
COD	600	12.0	1.0	7.2
SS	600	21.0	1.0	5.0
油分	5	1.6	0.1	0.7
Zn	5	0.6	0.04	0.11
Cu	3	0.1	<0.01	0.02

精密ばね生産本部

厚木工場



所在地 神奈川県愛甲郡愛川町
生産品目 薄板ばね・精密プレス品
操業開始 1970年11月
従業員数 451人



工場長 北村 好一

工場長コメント
「美しい地球」を守るために、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高め、自らが環境保全活動を実行できるように、環境教育に取り組み「地球にやさしい工場づくり」をめざします。

考え方と方針

当工場は、薄板ばねを中心に自動車関連製品・情報機器関連製品などの高精度、高品質、高洗浄度製品を開発、生産しています。環境保全活動をスパイラルアップさせながら、地域と密着した環境対応型工場をめざします。相模川と中津川にはさまれた清らかなこの環境をいつまでも大切にするべく、従業員全員の意識向上を図り、「地球にやさしい工場づくり」をめざします。

2006年度および2007年度の取り組み

廃棄物削減と再資源化

- 2004年2月より再資源化率99%以上を達成し、現在は99.9%以上を維持しています。
- 2006年度には廃棄物自動計測システムを稼働させ、部署ごとにきめ細かく廃棄物量を管理し、一層の廃棄物削減を進めています。

環境負荷物質の削減

- 主力製品であるHDDメカパーツ部材は、鉛フリー化に続きクロムフリー化を推進し、一部の製品では量産適用を開始しました。
- 製品開発段階で環境影響評価、リサイクル評価などを行い、環境に配慮した製品づくりを進めています。

省エネルギー

- コンプレッサーの協調運転システムを稼働させ、無駄なアンロード運転をさせないように負荷に応じた台数制御運転を実施し、消費電力の削減を図りました。
- 既存設備の省エネ化および省エネ型の生産設備、空調機・照明機器などの導入を図り、さらなるエネルギーの削減に取り組みます。

●大気(規制値:大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	実績
NOx	温水ボイラー	250	75.4
	ばいじん	温水ボイラー	0.3*

※神奈川県条例 NOx単位:ppm ばいじん単位:g/m³N

●水質(規制値:下水道法)

単位:mg/ℓ

項目	規制値	実績			
		最大	最小	平均	
pH	5~9	7.9	6.5	7.1	
BOD	600	35.0	8.0	21.0	
SS	600	88.0	1.0	10.2	
油分	鉛物油	5	4.8	0.6	2.6
	動植物油	30	3.6	0.8	2.5
Fe	10	1.5	0.2	0.5	
総窒素	125	15.6	8.8	12.4	
フッ素	8	1.5	<0.01	0.2	
ほう素	10	0.4	0.1	0.2	

伊那工場



【宮田地区】 所在地 長野県上伊那郡宮田村
【箕輪地区】 所在地 長野県伊那市
生産品目 線ばね・精密加工品 機能部品
操業開始 1943年12月 2004年8月
従業員数 505人



工場長 川鍋 賢治郎

工場長コメント
中央アルプスの麓に位置する伊那工場。この信州の自然を後世に残すため、全員参加で地球にやさしく、地域に根ざした工場づくりを推進していきます。

考え方と方針

当工場は、自動車の主要部品であるエンジンのバルブスプリングをはじめ、各種線ばね、機能部品および半導体、液晶パネルの検査用機器など、高品質、高機能で地球環境への負荷が少ない製品を開発、製造しています。人々の心身を癒す伊那谷の静謐な環境、この状態がいつまでも続くよう社会・地域と共生し、環境保全活動に従業員全員で取り組みます。

2006年度および2007年度の取り組み

環境保全への対応

- 工場創設以前より敷地中央部に用水路が流れており、今でも舗装された通路の下を流れています。この用水路には雨水放流用の開口部がありましたが、すべての開口部をマンホール化(シール付)し、新たに設置した雨水溝には油水分離槽を新設しました。これにより流出事故を未然に防止できます。
- 工場内に「環境塾」を創設しました。ここで適正な分別を実践教育することで、環境保全への意識高揚を図ります。

廃棄物削減活動

- 窒化処理工程から点検時に排出される冷却液は、そのまま産廃処理していましたが、一部濃縮することで排出量を半減し、地球環境負荷の低減を図りました。

省エネルギー

- 建設中の新工場は自然採光や断熱効果を高める構造にし、さらにユーティリティ関係には省エネ機器を採用することで省エネルギーに積極的に取り組み、地球温暖化防止を推進します。

●大気(規制値:大気汚染防止法)

物質	設備	規制値		実績
		A	B	
NOx	暖房用ボイラー	A	250	52.1
		B	250	53.2
		C	250	75.6
ばいじん	暖房用ボイラー	A	0.3	0.07
		B	0.3	0.06
		C	0.3	0.06

NOx単位:ppm ばいじん単位:g/m³N

●水質(規制値:下水道法および長野県条例)

単位:mg/ℓ

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.7~8.7	8.6	6.7	7.1
BOD	600	16.0	1.0	6.4
COD	—	30.0	6.0	15.2
SS	600	34.0	1.0	6.3
油分	5	2.4	1.0	1.1
Fe	10	0.1	<0.01	0.04
Cu	3	0.1	<0.01	0.01
総窒素	380	13.3	1.3	5.6

DDS事業本部

DDS駒ヶ根工場



所在地 長野県駒ヶ根市
生産品目 HDD用サスペンション
操業開始 1983年11月
従業員数 447人



工場長 津田 元宏

工場長コメント
クリーンな駒ヶ根の環境下でクリーンな製品を送り出す工場として、環境にやさしい工場づくりをめざし、全員参加による地域と一体となった環境保護活動を推進しています。

考え方と方針

当工場は、先端技術を駆使してハードディスク用サスペンションを生産しています。自然環境に恵まれたこの地を健全な状態で後世に引き継ぐため、「環境にやさしい工場づくり」をめざし、事業活動を通して継続的な環境保全活動を推進し、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減およびリサイクルなどを実施するとともに、地域社会における環境保全に取り組みます。

2006年度および2007年度の取り組み

廃棄物削減と再資源化

- 教育改善推進センターでの教育を通して分別徹底を図り、再資源化率99%以上を適期で維持しています。
- 梱包資材のリユース推進により廃棄物を削減するとともに、サーマルリサイクルからマテリアルリサイクルへの移行を進めています。

省エネルギー

- エネルギー効率の低い旧タイプの設備について、サーボモーターを用いた高効率プレスへの改造を進めており、2007年度ですべて完了する予定です。
- 2007年度建設予定の新事務所についても省エネルギーの徹底を図り、地球温暖化防止に努めます。

●水質(規制値:下水道法)

単位:mg/ℓ

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8~8.6	7.7	6.4	7.2
BOD	20	18.0	2.0	11.6
COD	20	15.0	4.0	11.7
SS	30	9.0	1.0	2.3
油分	5	1.7	0.1	0.7

伊勢原工場 接合・セラミック部/特品部



所在地 神奈川県伊勢原市
 生産品目 ろう付品・配管支持装置・特殊ばね
 操業開始 1993年3月
 従業員数 177人



部長コメント

敷地内の遺跡発掘を行っており、平安時代の住居跡、遺物が多数出土しています。一千年以上昔も、非常に住み良い環境だったようです。次の一千年につなげることで、これは私たちの義務と考えています。

接合・セラミック部長
茅本 隆司

考え方と方針

当工場は、多くの部門が集合し、多岐にわたる事業を展開しています。そのすべての事業活動の中で、環境保全活動に取り組み、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の低減などの活動を、継続的に改善し実施していきます。

2006年度および2007年度の取り組み

省エネルギー

- 24時間運転の冷却水ポンプのインバーター化により、設備非稼働時の電力削減を図りました。
- 工場内エア配管のリーク量のチェックにより、コンプレッサ稼働負荷低減に取り組みます。

廃棄物削減と再資源化

- 2006年度は、通年で再資源化率99.9%以上を達成しました。再資源化率100%の目標に向けて、さらなる分別の強化を図ります。
- 排出量の削減としては、洗浄液の蒸留再生装置の導入により廃液の削減に取り組みます。

環境管理体制の強化

- 塗装設備の循環水槽の汚染物質流出対策として、無人警報設備を設置しました。環境事故の未然防止に取り組み、管理強化を図ります。

●大気(規制値:大気汚染防止法)

物質	設備	規制値		実績
		A	B	
NOx	冷水ボイラー	A	150	38
		B	150	52
ばいじん	冷水ボイラー	A	0.1*	0.03
		B	0.1*	0.04

*神奈川県条例 NOx単位:ppm ばいじん単位:g/m³N

●水質(排水量50m³/日未満のため自主管理) 単位:mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8~8.6	7.8	6.8	7.1
BOD	130	18.0	7.0	10.8
COD	130	42.0	4.0	21.1
SS	160	11.0	1.0	4.3
油分	5	1.7	0.1	1.2
Fe	3	0.2	<0.01	0.1
Zn	1	0.1	0.01	0.04

産機駒ヶ根工場 化成品・電子部品部



所在地 長野県駒ヶ根市
 生産品目 特殊発泡ポリウレタン製品・金属ベースプリント配線基板
 操業開始 1981年12月
 従業員数 135人



部長コメント

2つのアルプスが映える緑豊かな景勝地のもとで、当社の「地球環境行動指針」と「地球環境行動計画」に基づき、地域に根ざした循環型社会への取り組みを全従業員で推進していきます。

化成品部長
川口 博正

考え方と方針

当工場は、2つのアルプスが映える緑豊かな景勝地にあり、機能性ウレタン製品およびプリント配線板の生産を行っています。ニッパツの行動指針、行動計画を基に、地域に根ざした循環型社会への取り組みを全従業員で推進します。

2006年度および2007年度の取り組み

環境負荷物質の削減

- 検査ガスの代替実験を進め、代替ガスの絞り込みを実施しました。2007年度は代替ガス化を図り、検査ガスの低減を進めます。

省エネルギー

- エコモニター設置を推進し、工場負荷分析を進めエネルギー低減を図ります。
- 工場のエアーループ化を実施し、負荷低減を進めました。今後、設備のエア漏れ対策を進め、さらなる負荷低減に取り組みます。

環境管理体制強化

- 排水処理設備の監視戸を設置しました。定期的な監視を実施し、管理向上を図っています。

●大気(規制値:大気汚染防止法)

物質	設備	規制値		実績
		A	B	
NOx	温水ボイラー	A	180	55
		B	180	70
	多段プレスボイラー	A	180	67
		B	180	51
ばいじん	温水ボイラー	A	0.3	0.05
		B	0.3	0.07
	多段プレスボイラー	A	0.3	0.06
		B	0.3	0.05
暖房用ボイラー	A	0.3	0.05	
	B	0.3	0.08	

NOx単位:ppm ばいじん単位:g/m³N

水質(規制値:長野県条例) 単位:mg/l

項目	施設	規制値	実績		
			最大	最小	平均
pH	第一生産棟 第二生産棟	5.8~8.6	8.4	7.1	7.8
			8.1	6.3	6.9
BOD	第一生産棟 第二生産棟	20	3.0	1.0	1.9
			18.0	2.0	6.2
COD	第一生産棟 第二生産棟	20	4.0	1.0	2.1
			15.0	3.0	7.9
SS	第一生産棟 第二生産棟	30	3.0	1.0	1.4
			3.0	1.0	1.2
油分	第一生産棟 第二生産棟	5	2.1	0.1	0.9
			2.4	<0.1	1.0
Fe	第二生産棟	10	0.5	0.01	0.2
Cu	第二生産棟	3	0.4	<0.01	0.2

野洲工場 パーキング部



所在地 滋賀県野洲市
 生産品目 立体駐車装置
 操業開始 1996年10月
 従業員数 58人



部長コメント

湖国独特の豊かな自然の様々な変化を、自然界が発する警告と受けとめ、環境は壊れやすく復元し難いことを認識し、従業員全員での地球にやさしい工場づくりをめざします。

パーキング部長
大塚 敏文

考え方と方針

当工場は、環境への負荷低減をスローガンに、機械式駐車装置などの高品質、高機能部品を開発、製造しています。今後もより一層の地球環境保護を推進するとともに、琵琶湖を囲む緑豊かな山々、青い空と河川の流れなどのすばらしい環境を後世に継承するため、環境保全の継続的改善に取り組んでいきます。

2006年度および2007年度の取り組み

省エネルギー

- 設備稼働の時間管理および工場照明の天候管理を継続的に実施し、エネルギー消費を削減しました。
- 2007年度は、照明機器の省エネ灯への変更および生産計画を反映した設備稼働運転の見直しを含め、展開をさらに強化していきます。

廃棄物削減と再資源化

- 理め立て廃材の分別強化とマテリアルリサイクル化による処理費削減を図りました。
- 2007年度は、ごみ分別の細分化強化によるリサイクル推進と、排出容積率縮小を図り、再資源化率99%以上の維持と、処理コスト削減を図ります。

グループを含めた公害防止活動

- 協力会社の環境パトロールを展開し、地域社会への環境事故防止の呼びかけを図ります。

●大気(規制値:大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	実績	
				NOx
ばいじん	乾燥炉	0.1	230	23.5
			0.1	0.05
ばいじん	乾燥炉	0.2	0.2	0.07
			0.2	0.07

NOx単位:ppm ばいじん単位:g/m³N

●水質(規制値:下水道法) 単位:mg/l

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	8.4	6.3	7.4
BOD	600	21.0	1.0	8.3
COD	—	33.0	4.0	13.1
SS	600	6.0	1.0	2.9
油分	5	4.8	0.1	2.5
Ni	1	0.6	0.1	0.3
総窒素	60	16.6	13.8	14.5
総りん	10	1.8	<0.01	0.2

国内(23社)

ニッパン(日発販売株式会社)

本社：〒135-0051 東京都江東区枝川2-13-1
TEL.(03)5690-3001 FAX.(03)5690-3025
主要業務：自動車部品・用品、自動車用ばね、産業用機器・部品、精密ばね・同複合機能部品、ファスナー、資材、情報関連機器、加工関連部品、機材設備関連機器の販売および輸出入

日発運輸株式会社

本社：〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10
TEL.(045)788-0811 FAX.(045)701-5521
主要業務：貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、倉庫業、包装業、機械設備の据付業、海外輸出入取扱業務

株式会社ニッパツサービス

本社：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-32-1ニッパツ西口ビル
TEL.(045)316-7700 FAX.(045)322-2271
主要業務：石油・石油製品・自動車部品・用品の販売、化学製品・一般高圧ガスなどの販売および付帯設備工事、損害・生命保険代理店業、不動産業

株式会社ニッパツアメニティ

本社：〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10
TEL.(045)786-7555 FAX.(045)786-7577
主要業務：ビル総合管理、警備業、緑化事業、印刷、人材派遣業、情報システム開発および運営管理、リース・レンタル事業、飲食業

株式会社ジー・エル・ジー

本社：〒212-0057 川崎市幸区北加瀬2-1-12
TEL.(044)599-2471 FAX.(044)588-4814
主要業務：ゴルフ練習場運営

横浜機工株式会社

本社：〒259-1146 神奈川県伊勢原市鈴川56
TEL.(0463)94-8425 FAX.(0463)94-8435
主要業務：スタビライザならびに照明器具の製造販売

株式会社スミハツ

本社：〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-5 MY岩本町ビル4F
TEL.(03)3864-6331 FAX.(03)3864-6130
主要業務：板ばね、コイルばね、分岐器、レールクリップ、合成まくらぎの製造販売

株式会社ホリキリ

本社：〒276-0022 千葉県八千代市上高野1827-4
TEL.(0474)84-1111 FAX.(0474)84-2442
主要業務：各種ばねの製造販売

東北日発株式会社

本社：〒024-0334 岩手県北上市和賀町藤根18-25-2
TEL.(0197)73-5221 FAX.(0197)73-7143
主要業務：コイルばね、精密ばね、線ばね、特殊ばね、自動車用シート部品の製造販売

株式会社アイテス

本社：〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町2258
TEL.(045)813-4777 FAX.(045)812-0840
主要業務：自動車用シート、内装品の製造販売

フォルシア・ニッパツ株式会社

本社：〒231-0012 横浜市中区相生町3-56-1 JNビル3F
TEL.(045)345-3001 FAX.(045)345-3002
主要業務：自動車用シートの開発および販売

フォルシア・ニッパツ九州株式会社

本社：〒800-0321 福岡県京都郡苅田町新浜町9-9
TEL.(093)435-3300 FAX.(093)435-2900
主要業務：自動車用シートの製造販売

株式会社シンダイ

本社：〒444-1301 愛知県高浜市新田町3-3-6
TEL.(0566)52-1221 FAX.(0566)52-1225
主要業務：自動車および家具用シートスプリング、トランクリッドトーションバー、サンバイザーワイヤーの製造販売

株式会社スニック

本社：〒438-0211 静岡県磐田市東平松1403
TEL.(0538)66-5511 FAX.(0538)66-5510
主要業務：二輪車および自動車用シートの製造販売

ユニフレックス株式会社

本社：〒399-4501 長野県伊那市西箕輪字北原2445-5
TEL.(0265)76-3280 FAX.(0265)76-3288
主要業務：自動車用部品の製造および販売、一般産業機器の設計・製造・販売

アヤセ精密株式会社

本社：〒252-1125 神奈川県綾瀬市吉岡東1-13-6
TEL.(0467)76-7631 FAX.(0467)76-6472
主要業務：精密ばねの製造販売

特殊発條興業株式会社

本社：〒660-0807 兵庫県伊丹市長州西通1-10-14
TEL.(06)6401-6041 FAX.(06)6488-9489
主要業務：スプリングワッシャー、波型ばね座金、薄板ばね、線ばねなどの製造販売

日発テレフレックスモース株式会社

本社：〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-21-10
TEL.(045)475-8901 FAX.(045)475-8907
主要業務：マリン、インダストリアル用メカニカルリモートコントロールボックス・コントロールケーブル、電子式リモートコントロールシステム、ステアリングシステム(メカニカル式、油圧式)、フットペダル(メカニカル式、電子式)の製造販売

株式会社ニッパツパーキングシステムズ

本社：〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目2-1-49
TEL.(0463)91-8620 FAX.(0463)91-8646
主要業務：機械式立体駐車装置全般の計画・販売・施工・メンテナンス・リニューアル、駐車場付帯設備の販売

日本シャフト株式会社

本社：〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-1-15
TEL.(045)782-2561 FAX.(045)783-3559
主要業務：ゴルフシャフト、金属バット、パイプ製品、カーボン複合製品の製造販売

株式会社トープラ

本社：〒257-0031 神奈川県秦野市曾屋201
TEL.(0463)82-2711 FAX.(0463)83-4877
主要業務：自動車用ねじ、ボルトおよび工業用ファスナーの製造販売

日発精密工業株式会社

本社：〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目2-1-49
TEL.(0463)94-5235 FAX.(0463)93-5104
主要業務：ねじ工具、自動車部品、情報処理機器部品、産業用精密部品の製造販売

株式会社ニッパツ・ハーモニー

本社：〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10
TEL.(045)786-7571 FAX.(045)786-7501
主要業務：建物内外の清掃業務および緑化業務、一般廃棄物の分別収集、製造補助作業

海外(22社)

北・南米

NHKインターナショナル株式会社

本社 : 50706 Varsity Court, Wixom, Michigan 48393, U.S.A.
TEL.1-248-926-0111 FAX.1-248-926-2022
主要業務 : R&Dおよびエンジニアリングサービス、情報通信関連部品の販売

ニューメーサーメタルズ株式会社

本社 : 5270 North Detroit Ave., Toledo, Ohio 43612 U.S.A.
TEL.1-419-476-9311 FAX.1-419-476-3466
主要業務 : スタビライザの製造販売

NHKオブアメリカサスペンションコンポーネンツ株式会社

本社 : 3251 Nashville Road, Bowling Green, Kentucky 42101 U.S.A.
TEL.1-270-842-4006 FAX.1-270-842-4618
主要業務 : コイルばね、トランクリッドトーションバー、スタビライザリンクの製造販売

NHKシーティングオブアメリカ株式会社

本社 : 2298 West State Road 28, Frankfort, Indiana 46041-8772 U.S.A.
TEL.1-765-659-4781 FAX.1-765-659-5591
主要業務 : 自動車用シートの製造販売

NHKスプリングプレジジョンオブアメリカ株式会社

本社 : 10600 Freeport Drive, Louisville, Kentucky, 40258, U.S.A.
TEL.1-502-935-5556 FAX.1-502-935-5506
主要業務 : 自動車エンジン用バルブスプリング、AT用ばねなどの製造販売

ラッシーニ-NHKアウトベサス有限公司

本社 : Av. Marginal da Via Anchieta, km 14,5, 09883-000,
São Bernardo do Campo, São Paulo, Brasil
TEL.55-11-4366-9300 FAX.55-11-4368-0275
主要業務 : 板ばね、コイルばねの製造販売

アジア

日本発条(泰国)有限公司

本社 : Bangna Towers A, 6-7th Fl., 2/3 Moo 14, Bangna-Trad Rd., K.m.6.5
Bangkaew, Bangplee, Samutprakarn 10540 Thailand
TEL.66-2-730-2200 FAX.66-2-730-2226
主要業務 : 自動車用懸架ばね、シート、内装品、精密ばねおよび情報通信関連部品の製造販売

日発精密(泰国)有限公司

本社 : No.549 Moo 4, Bangpoo Industrial Estate Soi 11B, T.Phragsa,
A.Muang Samutprakarn 10280, Thailand
TEL.66-2-709-3678 FAX.66-2-709-3939
主要業務 : ブレーキディスクの製造販売

ゼネラルシーティング(タイランド)株式会社

本社 : Eastern Seaboard Industrial Estate (Rayong) 64/3 Moo 4,
Pluakdaeng, Rayong 21140, Thailand
TEL.66-38-954-905 FAX.66-38-954-912
主要業務 : 自動車用シートの製造販売

オートランス(タイランド)株式会社

本社 : 19th Floor, Ocean Tower2, 75/31 Soi Sukhumvit 19, Sukhumvit Rd
North Klong-toey, Wattana, Bangkok 10110, Thailand
TEL.66-2-661-7204 FAX.66-2-661-7217
主要業務 : 自動車・二輪車部品の納入代行、輸出入貿易業など

NHKマニファクチャリング(マレーシア)株式会社

本社 : Lot 44, Persiaran Bunga Tanjung 1, Senawang Industrial Park,
70400 Seremban, Negeri Sembilan Malaysia
TEL.60-6-678-7495 FAX.60-6-678-7492
主要業務 : プリント配線板の製造販売

広州日発商貿有限公司

本社 : 中国広東省広州市天河区林和西路161号中泰國際廣場A棟1001室
TEL.86-20-3825-1940 FAX.86-20-3825-1325
主要業務 : 中国オペレーションの統括およびニッパツグループ製品の販売、部材の輸出入

広州日正弹簧有限公司

本社 : 中国広東省広州經濟技術開發区東区開元路28号
TEL.86-20-8226-6136 FAX.86-20-8226-6187
主要業務 : コイルばね、スタビライザの製造販売

広州日弘機電有限公司

本社 : 中国広東省広州經濟技術開發区東区聯広路189号
TEL.86-20-8226-6456 FAX.86-20-8226-6270
主要業務 : 自動車用バルブスプリング、圧縮ばね、情報通信関連部品の製造販売

重慶慶鈴日発座椅有限公司

本社 : 中国重慶市九龍坡区石橋鋪科園2街58号
TEL.86-23-6860-8854 FAX.86-23-6863-7814
主要業務 : 自動車シート、内装品の製造販売

深圳日発機電製造有限公司

本社 : 中国深圳市龍崗区布吉鎮三联禾沙坑村和生工業区A1棟3-4楼
TEL.86-755-8967-4119 FAX.86-755-8967-4117
主要業務 : カーボン製品、カーボンシャフト、自動車用シート部品の製造販売

日本発条(香港)有限公司

本社 : Suite No. 15B-17, 9th Floor, Tower 3, China Hong Kong City, 33
Canton Road, T.S.T., Kowloon, Hong Kong
TEL.852-2314-4703 FAX.852-2314-4707
主要業務 : 情報通信部品の輸出入

日發科技有限公司

本社 : Suite No. 15B-17, 9th Floor, Tower 3, China Hong Kong City, 33
Canton Road, T.S.T., Kowloon, Hong Kong
TEL.852-2377-1068 FAX.852-2314-4707
主要業務 : HDD用サスペンションの製造販売

日發電子股份有限公司

本社 : 中国台湾省新竹市東大路二段76号6F-2
TEL.886-3-5323800 FAX.886-3-5323202
主要業務 : マイクロコンタクト関連製品の販売

友聯車材製造股份有限公司

本社 : 中国台湾省苗栗縣三義鄉西湖村伯公坑40-10号
TEL.886-37-873801 FAX.886-37-874239
主要業務 : 板ばね、コイルばね、自動車用シート、内装品の製造販売

日本発条インド株式会社

本社 : Plot No.31, Sector 3, Industrial Model Township, Manesar
(Haryana)122050, India
TEL.91-124-4369721 FAX.91-124-4369720
主要業務 : コイルばね、スタビライザの製造販売

欧州

イベリカ デ スペンシオネス有限公司

本社 : Poligono Industrial La Mina, 12520 Nules(Castellón) Spain
TEL.34-964-67-4212 FAX.34-964-67-3540
主要業務 : コイルばね、スタビライザの製造販売

ニッパツ会社概要 Corporate Profile

会社概要(2007年3月末現在)

商 号 日本発条株式会社
設 立 1939年(昭和14年)9月8日
資 本 金 170億957万円
従 業 員 数 11,781名(連結)
売 上 高 4,280億円(2006年度、連結)
本 社 〒236-0004
横浜市金沢区福浦3-10
事 業 部 ばね生産本部、シート生産本部、
精密ばね生産本部、DDS事業本部、
産機事業本部、STS事業部
工 場 横浜工場(ばね/シート)、滋賀工場、
群馬工場、豊田工場、厚木工場、
伊那工場、駒ヶ根工場(DDS/産機)、
伊勢原工場、野洲工場
分 館・分 室 東京分館、横浜分室
支 店・営 業 所 北関東支店、浜松支店、名古屋支店、
大阪支店、広島支店、福岡営業所
上 場 東証第一部(コード5991)
関 連 会 社 国内23社、海外22社

編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。
2000年より毎年発行しております「環境報告書」を、
「環境・社会報告書」「社会・環境報告書」を経て、今年
度から企業の社会的責任の総合的な考えから「CSR報
告書」としました。内容的にはまだまだ不十分な点も
多く、今後読者の皆様のご意見・ご要望をいただきな
がら、報告内容のさらなる充実を図っていきたくと思
っております。

つきましては、添付のアンケートにご協力いただき、皆
様の率直なご感想をお聞かせいただければ幸いです。

2007年9月

NHKニッパツ

日本発条株式会社

<問い合わせ先>

日本発条株式会社 企画本部広報部
〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10
TEL : 045-786-7513 FAX : 045-786-7598
ホームページ : <http://www.nhkspg.co.jp/>
Email : b2200@nhkspg.co.jp

